

第11回

さくらピア避難所体験

防災運動会

～ 体験しよう 備えよう 障害者の防災を考える集い ～



2019/9/28

実施報告書

～台風19号激甚災害について～

2019年10月12日から13日にかけて、台風19号が日本各地にかつてない大雨を降らせ、河川の決壊による浸水、停電等、甚大な被害が起こりました。被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして被災地の障害者の方々はどのようにしているのでしょうか。

東海地震だけでなく様々な災害に備えて、各自、各家庭、団体、地域、行政等、関わる人それぞれが対策に取り組むことの大切さを痛感します。

主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会

共催：豊橋市

後援：豊橋市社会福祉協議会、豊橋善意銀行、豊橋市教育委員会、東愛知新聞社、東海日日新聞社、中日新聞社、[ティーズ]、やしの実FM

参加者内訳



(単位:人)

	障害等種別	①防災 運動会	②防災 活動紹介	合 計
障害者 ・ 家族(当事者)	身体	16	5	21
	うち中学生以下	2	0	2
	内部	1	0	1
	聴覚	6	5	11
	視覚	2	0	2
	その他障害	0	0	0
	精神	3	2	5
	知的	19	1	20
	うち中学生以下	1	0	1
	発達	0	0	0
	身体・知的	6	0	6
	家族	12	3	15
	小計	65	16	81
うち中学生以下	3	0	3	
一 般	介助	10	0	10
	ボラ	17	15	32
	議員	3	1	4
	民生	3	1	4
	社協	1	0	1
	市職員	7	0	7
	その他	29	8	37
	うち中学生以下	11	4	15
	さくらピア	7	7	14
	小計	77	32	109
	うち中学生以下	11	4	15
合 計	142	48	190	

参加総数は 190 名(前年 240 名)で、うち障害当事者は 66 名(前 81 名)、障害者家族は 15 名(前 33 名)、一般参加者は 109 名(前 126 名)だった。内容別では、①防災運動会 142 名(前年は避難・報告訓練 126 名)、②防災活動報告 48 名(前年は講演・初期消火訓練 119 名)であった。

今回は、防災運動会と銘打ち、今までの防災訓練、学習的イメージを和らげ、新しい参加者の掘り起こしに取り組んだ結果、初参加の人が多かった。知的障害、ろう重複障害の 2 施設から職員・利用者含め 29 名の参加があり、地域住民との交流を体験した。

夏休みの親子防災、9月の防災タイム、そしてこの防災運動会、3月の 3.11 を忘れない集いを合わせると延べ 1000 人以上の市民に啓発活動ができたことになる。



スケジュール



<午前>

◆防災運動会【@さくらピア体育館】

- ①開会式
- ②非常食配達ゲーム
- ③大声コンテスト
- ④防災釣りゲーム
- ⑤みんなで協力わっしょいリレー
- ・アンケート記入、解散、非常食試食

<午後>

◆活動紹介タイム【@さくらピア 1 階ロビー】

- ①防災グッズ紹介
(豊橋防災 VC の会)
- ②避難所絵カード等紹介
(豊橋手話ネットワーク)
- ③防災企画のヒント紹介
(さくらピア)

防災運動会

はじめに

体育館の配置は、4つのブロックにシートを敷き、避難所を連想できるようにした。競技場所は、センターサークルを中心に4メートル程度の幅で中央に作った。受付後、名札に名前を記入、全員が揃うのを待つ間に段ボールベッドの組み立てをした。



＜非常食協賛＞
豊橋市
有楽製菓(株)
トース(株)
(株)サン・カンパニー
(株)伊藤園
コカ・コーライーストジャパン(株)



①非常食配達ゲーム

リーダーを決め、出席確認をした後、各グループに非常食(乾パン・飲料水・缶ケーキ・チョコレート)を中央の保管場所から持っていき、配布するだけのことである。しかし、初対面の人と手分けして動くのはそう簡単ではない。

来賓の方に、①チームの**みんなが協力**しているか？ ②品物をもらった人は**お礼のあいさつ**ができていますか？ ③手際よく作業ができていますか？ をポイントに講評をいただいた。

相談に時間をかけるチーム、リーダーが敏速に指示をするチーム、一人一人が役割を分担する等、集まった人の顔ぶれで特色が出た。



②大声コンテスト



5人1組で、相談して決めた言葉を10秒間叫び、騒音計で測定した。視覚障害の方は必ず参加し、「助けて」「エイエイオー」「逃げろー」など思い思いにかいっぱい叫んだ。

災害時に大きな声で返事をしたり指示を出したりするための練習になったと思う。子供から大人まで楽しそうな様子が見て取れた。測定器は、市の環境保全課からお借りした。



③防災釣りゲーム

非常持ち出し袋の中身を柔らかいフェルト布で作成しクリップをつけ、磁石のついた竿で釣るゲーム。3年前の避難所体験の企画で考案、藤ノ花女子高等学校手芸部に制作協力を依頼した。2人1組で車いすに乗り、中央に設置した池で防災グッズを釣って戻る。はじめに、車いすの正しい使い方について車いす介助ボランティアグループの方に説明していただいた。障害のある人もない人も一緒に楽しめた。



④みんなで協力わっしょいリレー

デイサービスなどで行なっている、手ぬぐいの両端を持ってボールを送るゲームをアレンジして考案。10mの長布の上に防災グッズやボッチャボール、視覚障害者テニスの鈴の入ったボールなどをのせて送った。



ルールとして、何を送っているか目が見えない人にもわかるよう、声に出して物の名前を言いながら送ることとした。全員参加で和気あいあいとした雰囲気ゲームができた。

<総評>

この防災運動会の目的は、はじめて会った人と協働作業をすることの戸惑いやコミュニケーションの不便さを体験し、非常時に備えて助け合う心のつながりの大切さを各自に感じてもらう機会を提供することである。テキパキと事を進め、完成度の高さを競うものではない。その意味では参加者が初対面の人と打ち解けあい、交流する中で得たものは大きく、それが災害時の行動の思いやりにつながっていくことを願っている。

活動紹介タイム

①豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

災害時に役立つ手作り防災グッズとして、100円均一のクッション2つを縫い合わせて作った防災頭巾、貴重品を身に着けて携帯できるようにトレーナーの両袖を切ってポケットにして縫い付けた防災チョッキ、ひざ掛けを利用して作ったポンチョ、また数々の市販の照明グッズからおススメの製品などを紹介した。休憩時間に手に取って熱心に見ている人も多かった。



②豊橋手話ネットワーク

聴覚障害者を主体とし、手話に関わる市民で構成された豊橋手話ネットワークのメンバーが発表した。避難所で聴覚障害者にもわかるよう目で見える情報保障のある場合、ない場合を寸劇でわかりやすく表現し、簡単に使える手話単語「何」「水」「トイレ」等を教えた。

また、6年前に作成した「避難所絵カード」は市に寄贈し、各地域の避難所に備えてあることを紹介し活用を呼び掛けた。



③さくらピアの防災企画

さくらピア避難所体験を始めて11年目になる。指定管理者として有事の際に利用者の安全を守るためには、少人数の職員の誘導では限界がある。

防災タイムでは、各自・各団体で身を守り安全確保できるように、9月の通常の活動時間に避難経路の確認をしてもらった。特に予算もかからず、職員のやる気と利用者の協力があればいろいろな施設で実施できるので、他の公共施設にもお勧めしたい。

親子防災は、夏休みに親子で防災と障害者理解を一緒にできる企画。防災をより身近なものに感じられるように心がけていることを紹介した。



障害者主体で防災考える

避難所体験 ゲーム通して楽しく学ぶ

豊橋で豊障連

言葉を叫んで音量を競う「大声コンテスト」、交替で車イスに乗り会場中央の「釣り池」でヘルメットや懐中電灯、手袋など必要な防災グッズを釣り上げる「防災釣りゲーム」、全員で長さ10メートルの布を持ち、布を揺らしてボールやリョック、各種防災グッズを端から端へ送る「わっしょいリレー」を体験。参加者は笑顔で周囲と会話を弾ませながら、防災知識や心構えを身につけていた。運動会後は防災に関する活動紹介も行われた。

「体験しよう 備えよう 障害者の防災を考える集い2019」と銘打ち、障害当事者や家族、ボランティア、地域住民らが共に防災に関する知識を深める「さくらピア2019 避難所体験 防災運動会」が28日、同市障害者福祉会館「さくらピア」で開かれた。今回は、参加者がゲームを通して楽しく防災について学んだ。
(田中博子)



協力し合って長布の上の防災グッズなどを運ぶ参加者＝さくらピアで



車イス移動を体験しながら交替で防災グッズを釣るゲームに挑戦＝同

同館指定管理者である「豊橋障害者（児）団体連合協議会」（豊障連、山下徹会長）主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援の恒例事業。福祉避難所である同館で障

害者や家族、行政・福祉関係者、近隣住民らが避難生活などを検証するもので、障害当事者が主体となった継続的な防災啓発事業の取り組みは全国でも高評価を受けてい

る。2年前から宿泊体験を一日体験に切り替え、取り組みの発信・周知にも力を入れている。これまで、講演や避難訓練、災害ボランティア受け入れ・申し込みの演

習、避難所開設レイアウト実習など年ごとに内容を変えて実施。今回は、楽しみながら知識を深め、多くの人と交流してもらおうと、「防災運動会」なるユニークな催しを企画した。

当日の申し込み者は約140人。大きく居住地ごとに4グループに分かれ、グループごとに人数確認、段ボールベッドを組み立てながら非常食を待つ「非常食配達ゲーム」をはじめ、「助けて」などグループで決めた

東愛知新聞

2019年9月29日(日)

2019年9月30日(月)

中日新聞

福祉避難所の運営
ゲーム形式で学ぶ
豊橋で140人参加
ゲームを通じて、災害時に避難する障害者について考える催しが二十八日、豊



介助者に付き添われながら非常食を袋に詰める参加者(左)=豊橋市東新町のさくらピアで

橋市障害者福祉会館さくらピア(同市東新町)で開かれ、会館利用者やその家族、地域住民ら約百四十人が防災への理解を深めた。さくらピアは災害時に障害者や高齢者を受け入れる「福祉避難所」に指定されている。また、障害者が主体的に防災に取り組めるよう、障害者に特化した避難訓練や講演会などを毎年実施し、パンフレットやラジオドラマも作っている。この日は非常食の配り方や緊急時の助けの呼び方をゲーム形式で学んだ。非常食を配る際には、自閉症の人にサポーターが付いたり、耳の不自由な人に要約筆記でアレルギー物質を知らせたりした。大声コンテ

ストでは「助けてー」と叫んで、周囲に対して自分が困っていることを伝える練習をした。本田栄子事務長は「障害者と健常者が半々くらい参加してくれた。お互いに協力して災害を乗り越えられるよう、日頃から連携することが大切」と強調した。参加した天伯小五年の糟谷千夏さん(こ)は「聴覚障害者の人が困らないように、非常食の数を紙に書いて教えた。私も役に立てた」と笑顔で話した。

絵カードを使った視覚情報で聴覚障害者にもわかりやすく。↓



↑ 避難所を想定した各グループで出欠確認と自己紹介。共同作業で組み立てた段ボールベッドに座って。



〈防災運動会 アンケートより〉



- 企画内容が充実していてよかったです。
- 楽しかった。なかなか1番をとれなくてくやしかった。
- 高齢者は聞こえづらい人もいる。スピーカーは大きいかわかりづらい。ゆっくり話した方がいい。
- 皆の中で声をかけることが大切だと思った。
- 皆と協力出来てよかった。リーダーやってよかった。
- **楽しみながらやれたのがよかったと思う。避難所も同じかもしれない。**
- 避難所で経験しそうな非常食配達などゲームで親しめてよかった。
- 大声コンテストは防災訓練に役立ってます
- 思っていたよりとても楽しかったです。大声もなかなか出ませんでした。
- 全員で楽しめるゲームでよかったです。
- 皆が参加できるような工夫がしてあってとてもよかった。
- 魚釣りが楽しかった。
- 布で送るゲームはほこりになりよくなかった。
- 車いす等とペアになって行う競技が協力しあえてよかった。
- 色々な障害者と交流してためになり良かった。
- 障害の人と遊べて楽しかった。
- チームになるので色々な障害の方と触れ合うことができ、それに対する配慮も学べ楽しめよかった。参加してよかった。
- **身体障害のある娘にも優しく接してくれて嬉しかった。家族で楽しめた。**
- 耳の障害者とのコミュニケーションは割と取れるけど、脳性麻痺の方は難しいなと感じた。いい人なのに。
- 情報保障が必要。(聴覚障害者)
- 視覚障害者のことに関心を持ってきているのが嬉しかった。
- 同じ校区の防災の仲間が参加してくれて行事を共有出来てよかった。参考にしたい。
- 知らない方ばかりでしたが、お互い協力しあいながらゲームを通じてコミュニケーションをとれたのがよかった。**知らなかっただけで、近所に障害をお持ちの方がいることも知ることができた。**
- 学校での防災訓練に生かしたい。



〈活動紹介タイム アンケートより〉

- 防災グッズ、役立つものがたくさんありました。参考にしたい
(レトルト食品をホッカイロで温める・ソーラーのライト・トイレグッズ)
- **自治会の参加があるととさくらピアの活動が理解していただける。**
- **いつくるかわからないから、先に勉強したり準備したりしたい。(小学生)**
- ポケット付きベストや毛布入りリュックを作りたい。
- 普段見聞きする防災グッズと違って実践的でかなり役立つ品 (LED ランタンや衣類型携帯貴重品袋・命を守る5点セット) は大変参考になりました。
- 障害者本人じゃないと気付かないことにも気づけて良かった。



防災タイム 2019

各グループの活動時間に実施

- ・ 9/1～9/15(2週間・毎日)
- ・ 午前 11 時 30 分・午後 2 時 30 分・午後 8 時の 1 日 3 回
- ・ 訓練放送の後、グループごとに部屋からの避難経路を確認



歩ける人

階段が使えない人

★アンケートより

参加団体： 80 グループ

	〈障害者〉	〈その他〉
公園まで避難した人	235 名	250 名
各階の避難所へ避難した人	77 名	63 名

合計 625名 (312 名 313 名)



ロビーには、パトライトがない。
(聴覚障害者)



部屋を離れるときは、ひと声かける必要がある。

視覚障害者だけの時は、物につまずきそう。一人でも壁づたいに避難できるかも。
(視覚障害者)

大人数で避難する時は、お互い声掛けが大切



利用する部屋の近くに避難スペースがあると確認できたので安心。



動きの悪い人は、避難に時間がかかる。複数の避難経路を知っておくといい。

自分に障害があっても、他の人の手助けができることがある。

4 年目の訓練ですが、毎年初めて参加の方がいます。また、自主的に話し合ってくれたグループもありました。続けることで、皆さんの意識が高まっているのを実感します。

公園に避難して、「同じ曜日の同じ時間で活動している人がこんなに大勢いるんだ。」と驚いた。

～さくらピア事務所より～

万一の迅速な障害者避難へ

豊橋・さくらピア 災害時の経路など確認 利用者らが訓練

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で今月1日から15日まで、毎年恒例の「防災タイム2019」を実施中。連日、利用者が期間中に避難訓練を体験、館内避難経路などを再確認してこた。

(田中博子)



「防災タイム」で避難する館利用者＝さくらピアで

「防災タイム」を設け、避難経路等の安全について館職員が利用者と共に考える機会としている。例年600人前後が体験し、今年は11日現在、延べ88団体約400人が訓練に参加している。

通常の活動中に訓練放送が流れ、利用者は職員の誘導のないまま、各階各部屋から自分たちだけで避難経路を確認しながら同館前の桜ヶ丘公園に避難する。体育館で運動していた車イス利用者や階上の部屋を使っていた自主グループなどは、訓練に参加した人たちは、放送後速やかに活動を開始。避難場所の公園に着くと、互いに気付いたことなどを話し合い、職員に報告していた。

気付いたことは改善として蓄積

事後のアンケート調査を今後に生かしていく試みで、これまでに「夜間の階段が心配」「放送時にトイレで不在の人がいた」「玄関扉を手動で開ける訓練を」などの感想や提案が寄せられ、各ドアで異なるサムターンの統一化を図ったり、屋外

階段に貼るための蓄光テープを発注したりと改善

にも取り組んでいる。「グループごとに自主的に人数確認を行うなど、活動も浸透してきた。毎年訓練に参加する人がいる一方、毎年初めて体験するという人もいますので、今後も続けていきたい。生活の中に意識を入れていきたい」と本田菜子・同館事務局長は話す。

2019年9月13日(金)

東愛知新聞



2階ランニングコースから待避所へ



桜ヶ丘公園へ避難し状況確認

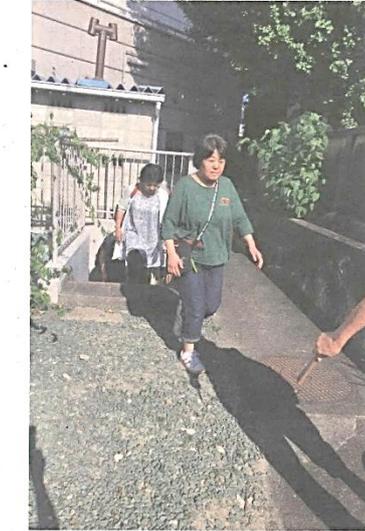


非常階段から屋外へ

東日新聞

TONICHI NEWS

発行者/東海日日新聞社 <https://www.tonichi.net>
 〒440-0674 愛知県豊橋市東松山町90番地 TEL.0532-53-2800 FAX.0532-53-7222 E-mail post@tonichi.net



最終日の15日に会館3階で、ボランティアサークル「豊橋」が来月の手話検定試験に向け、聴覚障害者2人を含む14人が参加して学習会を開いていた。「停電でエレベーターは使えません。訓練放送が館内に流れると、一人一人が避難経路を確認した上で非常階段から約

100以上の桜ヶ丘公園へ避難した。その一人、聴覚障害者の福山平子さんは、初めて訓練に参加した。「避難の際、階段は狭く、注意する必要がある。同時に災害の際、非常階段で逃げることを初めて知り、役立つ」と感想を述べた。防災タイムは15日の午前、午後夜の3回設定され、

時間は各約10分。利用者が身近に防災を考え、より実践的に訓練をしてみようという企画された。車いすなどの歩けない人については各階の避難スペースまで避難した。期間中は障害者340人を含む67団体で計677人と参加する団体が増えている。

ただ、初回だけ期間を約4カ月間と長くし、総会も重なったため、参加者は多かった。しかし、今年は猛暑や台風の影響などで前年より少なかった。利用者からは「勉強になった」「毎年やらないと忘れてしまう」などと好評だ。施設側では利用者



桜ヶ丘公園で災害に備え、心構えを語る本田事務長(右端) 同

より身近に 実践的に

「自分の命は自分で守って」。防災活動に力を入れる豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」(東新町)は、今月の前半に「防災タイム」を設け、利用者が避難訓練を体験した。4年目を迎え、参加する団体が増え、防災意識が高まっている。施設側は利用者の指摘を受け入れ、災害に備え、設備を整備している。

防災タイム設け利用者避難訓練

豊橋・さくらピア

訓練を続けることが大切だ」と話す。こうした取り組みの輪が広がるように市に働きかけている。会館は4階建て。豊橋障害者(児)団体連合協議会が管理運営する。会館の事業として障害者の生活を応援する一部と考え、防災をテーマに取り組んでおり、夏に親子防災教室を開いている。

万一へ備え意識高まる

2019年9月27日(金)

東日新聞

夏休み親子防災教室 2019/07/21(日)

夏休みに親子で福祉と防災を学ぶ企画です。

①ペットボトルランタンを作ろう!

材料：空のペットボトル、ライト、
中に入れるかざり(ジュエリード
ロップ、モール etc)

わあ〜明るい!!

講師：豊橋障害者(児)団体連合協議会

② ボッチャを体験しよう！

◆ボッチャは、
重度の脳性まひや四肢に
障害がある人のために考案
されたパラリンピックの
正式種目です。
障害のある人もない人も
一緒に楽しむことが
できます。



講師：鈴木祥子さん
(enjoy★ボッチャ代表)



★ランプ
→投球補助具

ボール



カードに感想を書いて



白ボールからの
距離を測ります



最後は掃除

夏休みに親子で防災学ぶ

豊橋で障害者への理解も深め

ペットボトルのランタン製作

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で21日、「2019年夏の夏休み親子防災教室」が開かれた。小学生を中心とした子ども26人と保護者ら大人14人が参加し、防災知識を深めた。

夏休みを利用し、親子で地域の障害者理解を深め、防災について考える機会にしようとして、



ペットボトルのランタンを製作する親子ら
＝さくらピアで

3年前から実施。防災頭巾や新聞紙を使ったスリッパ作り、視覚障害、聴覚障害についての学習など、年ごとにテーマを決めて学んでいる。

今年は、障害のある子を持つ保護者らで構成するサマースクール実行委員会を講師に、ペットボトルを使ったランタン作りを体験。各自が持参したペットボトルにモールやビーズなどの飾りを入れ、口の部分にライトをはめ込んでカラフルに光るランタンを完成させた。暗い部屋で幻想的に輝く手作りランタンに、子どもたちは大喜び。工作後は、非常持ち出し袋には何を入れて準備したら良いかも皆で考えた。

毎年参加しているという、同市立天伯小1年の糟谷千吏くんも母親の綾さんは「ランタン作りは楽しく、暗いところで光った時はきれいだった」「家の各部屋に置いてもいいので、自宅で作りたい」などと話していた。

この日は、障害者スポーツの体験もあり、enjy★ポッチャの鈴木祥子代表を講師に、パハリンピックの正式種目でもある「ポッチャ」に皆で挑戦した。

(田中博子)

2019年7月24日(水)

東愛知新聞

ペットボトルランタン作り挑戦

さくらピアで夏休み親子防災教室

豊 橋



豊橋市東新町のさくらピア(豊橋市障害者福祉会館)は21日、「夏休み親子防災教室」を開催した。市内の小学生以上の子どもやその付き添いの人ら42人が参加。災害に備えるため、周囲を明るく照らすペットボトルランタン作りを行った。(原田ひとみ)

制作は、豊橋障害者(児)団体連合協議会のメンバーを講師に行われた。参加者らは、ペットボトルの中にセロハン紙やシール、ジュエルビーズなどの飾りを入れ、LEDライトを挿してランタンを完成させた。

父親と弟と3人で参加した東田小4年の山田匠くん(9)

は、「昨年の台風24号で、家が停電して怖かったので参加した。また使う時が来るかもしれないので、大事に取っておきたい」と感想を話した。

この日は、パハリンピック正式種目の「ポッチャ」体験もあった。参加者たちは競技の魅力を体感していた。

2019年7月22日(月)

東日新聞

さくらピア避難所体験のあゆみ 2009～2019

実施企画

体育館で1泊2日

2009 ①	東海豪雨被災体験 「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない」 地震体験車 防災設備確認ラリー	プライベート間仕切り組み立て実演 防災グッズ紹介・豊橋市の避難所状況 障害者の防災を考えるグループワーク	
2010 ②	「阪神・淡路大震災、その時知的障害者は…」 地震体験車	防災紙芝居「おそろしい台風」 手作り防災グッズ紹介	
2011 ③	応急手当講習「三角巾の使い方」 はしご車 東日本大震災	そのとき 私たちは どう動くのか JDF(日本障害フォーラム)の活動からみえてきたもの 南三陸町視察報告	
2012 ④	「災害救助最前線」自衛隊講演 防災なるほどクイズ カレー炊き出し体験 九州北部豪雨	防災講話 夜の避難訓練	報告集『体験しよう備えよう 避難所体験の取組』発行
2013 ⑤	「逃げ遅れる人々」映画上映 バッククッキング 煙体験ハウス・地震体験車	ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋 夜の避難訓練	第18回防災まちづくり大賞 総務大臣賞
2014 ⑥	「地域防災と障害者」消防団講演 車いすダンスSHOW&逃げましょう 煙体験ハウス	防災ラジオドラマ作成 平成26年度防災ラジオドラマコンテスト 最優秀賞	平成26年度防災功労賞 内閣総理大臣賞
2015 ⑦	防災ラジオドラマに書ききれなかった思い 防災手話体験 関東・東北豪雨	防災レクリエーション 防災じゃんけん・新聞紙でスリッパ	
2016 ⑧	講演 あのときのこと 「気仙沼避難所運営38日間の生活」 熊本地震 防災教育チャレンジプラン 防災教育大賞	講演 これからのこと 「こども・障害者・高齢者の命を守る備え」 あそ防災 じゃんけん・釣りゲーム 防活ひろば・避難所GO!	親子防災① 防災頭巾 防災手話 防災タイム①

マンガ『障害者が避難所に来たら』発行

災害ボランティアと合同訓練

2017 ⑨	① 伝えて～避難・報告訓練 さくらピアからあいピアへ 九州北部豪雨	② 地域で～ 避難所開設レイアウト実習	③ つながって 防活ミーティング 地域ごとで話し合い	親子防災② 防災頭巾 視覚障害者体験 防災タイム②
2018 ⑩	① ハートを伝える 避難・報告訓練 大阪府北部地震 北海道胆振東部地震	② 備えを学ぶ 講演「災害時に役立つ薬の話」 西日本豪雨	豊橋でも 台風24号の影響で 大停電が…	親子防災③ 防災折り紙 知的障害者とは 防災タイム③

みんなで協力する地域づくり

2019 ⑪	防災運動会 ①非常食配達ゲーム ②大声コンテスト ③防災釣りゲーム ④わっしょいリレー 台風19号	活動紹介タイム 防災グッズ紹介(豊橋防災VCの会) 避難所絵カード・防災手話(豊橋手話ネットワーク) 防災企画のヒント(さくらピア)	 親子防災④ ペットボトルランタン ポッチャ体験 防災タイム④
-----------	--	--	--



～出会いがやさしい街をつくる～

第11回さくらピア避難所体験防災運動会の報告集は、写真を多めにして初企画の運動会の種目の様子が誰にでも良くわかるように作りました。この報告集を手にとった方が「来年は参加してみたいな」「私の地域でもできるかな」「職場で一つ取り入れてみようかな」と身近に思ってくださいと嬉しいです。

災害は障害当事者本人だけでなく、家族も友人も支援者も被災します。そのとき避難所でさりげなく「お手伝いしましょうか?」「お願いします」「大丈夫ですか?」「ありがとう」と声かけあえる出会いがこの防災運動会の中にあつたと参加者の笑顔が語っています。